

講義名	生活金融論				授業形態	
担当教員	小笠原 宏	開講期・曜日・時限		後期 火曜日 3 時限		
		単位数	2	履修開始年次	3 年生	ナンバリング・コード
主題と概要						
より実り多い経済生活のためにも個人（家計）の資産運用の必要性は高まっている。合理的な「投資行動」のためには金融証券市場を念頭において、何に投資をするべきか考察し決断するための分析力と決断力を養うことが重要である。しかし各種金融商品は複雑かつ多様化しており、その中での「最適」選択は難しい。。それ故に、効率的な資金運用（投資）を行うために基本的な理論及び手法を学ぶ。高度化し、複雑化した金融商品及び、金融市場に関する解説と動向を、タイムリーな事件、ニュースとからめて解説していく。多様な視点も考慮に入れて資産投資運用法を自ら構築できるようになるかについても解説していく。多様なリスクの現実的な把握と対処法について議論、解説する。						
到達目標						
(1)生活者の視点と必要性から、金融市場の意義と役割、その活用法を学ぶ。(2)合理的な「投資行動」を自ら考えて実行するために役立つ金融証券市場の知識、リスク概念など及び計量的分析アプローチ（記述統計学及び確率論など）を学び、現実社会での活用法を理解する。(3)投資対象の適切な選択を含め、当事者としての分析力と決断力を醸成する。(4)保険、年金などの生活者にとって重要な金融商品の理解を深める。(5)その他多様な金融商品に関する知識や情報を理解し、現実の投資行動等にいかに活かせるようになる。						
提出課題						
授業理解度、進捗に応じて毎回、適度の負担にならない程度の小課題を課す。課題は、具体的な実施（実験、演習）方法を示すので、その場で自ら実演するか、各自授業後に実施して、結果などを提出してもらう方式などを考えている。質問や意見他、従来の出席票裏面の自由コメント欄のように、メールおよびブログへの書き込みなどを積極的に行ってほしい。生産的なものは、加点方式で考慮する。昨年度は毎回講義内容要約報告をメールにて提出とした。						
課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法						
講義内で展開して解説及びブログを通じて補足的説明を行う。						
評価の基準						
基本対面参加講義授業。個別の出席カウントは時間的な配慮をして集計する。（過剰な対応や集計固執するつもりはない。状況に応じて調整）。小課題の提出をもって、代替的に判断するなど、集計法は考慮する予定。小課題に対する評価の積み上げが基本だが、進捗度、理解度に応じて、最終試験代わりのまとめ的な課題レポートを課すなどを過去にはしてきた。試験だけでない評価法も加点方式として導入予定。コメントや質問など、授業参加度に関するものは、加点評価するつもり。内容的にも有用なものは、講義で補足および解説するので、積極的参加と、自力によるリサーチによる情報収集、知識集積の姿勢を奨励するは持つことが大事である。						
履修にあたっての注意・助言他						
金融、株式市場並びに投資に興味を持つようにして下さい。『金儲け』につながるような情報や機会に常にアンテナを張って欲しい。定番定説的なことを説明するような講義でなく、ここぞで聞けない自身の疑問をしてみました。新しい視点、アプローチを啓蒙するような講義を目指します。尚、全体的な共通留意事項として、「新型コロナウイルス感染症の状況によりシラパスの修正がある」可能性も認識しておいて下さい。講義はzoomを利用した教室全部白板投影による講義形式の予定。無謀強制的対面集合授業、対面参加形式の試験などは行わない予定。別形式での同等の教育効果を考慮した授業形式を実施する。ネットで、講義内容をビデオ録画して配信予定。復習他に活用して欲しい。特に、「リスク」「保険」「年金」「投資信託」など生活者にとって身近かつ重要な項目の解説と理解に重点を置いて講義している。						
教科書						
特に定めなし。						
参考図書						

その他			
証券市場、金融市場、その仕組みなどについて解説してある一般の入門書の類を積極的に読んで見てほしい。投資指南の類の本や資料などは殆ど役に立たないので進めない。日経ヴェリタスなどの金融専門新聞などをさっと見る方が参考になる。その他適宜必要に応じて授業中に参照及び提示する。適宜役立つようなものは、印刷して配布あるいは、ファイルで配布、A/Vコンテンツなどは、実際に見たり聞いたりしてもらう。（事後配布や事前配布は無し）。ブログを活用した、授業ログ（板書撮影ファイル(ppt)、音声ファイル(mp3)を複習用にアップして参照可にしてあるので、特に復習及び試験対策の際には活用して欲しい。（授業内で詳しく案内する）			
授業計画			
1投資と投機：生活者の消費行動と投資行動の違いに関する議論 2 投資と投機：生活者視点からの投資の成功のための原則と奥義 3リスク概念。リスクプロファイルとは何か他 4 リスク概念。生活者視点からの投資戦略（対処法概説） 5 金融市場の基本的機能について。基本理論 6 金融市場の基本的機能について。応用実践 7 証券市場の基本的役割。基本理論 8 証券市場の基本的役割。応用実践 9保険の仕組みと機能（生命保険、損害保険他）。 10年金制度の仕組みと理念。考え方 11ポートフォリオ理論の基本的考え方（分散投資と分割投資の違い） 12 ポートフォリオ理論の応用と実践 13 不動産投資についての理解と実践 14無形資産投資とは何か（特許、アイデアなど多様な投資対象） 15 高度な金融派生市場の役割（デリバティブ、F X、C D Sなど）フィナケなど。まとめ			
授業形態（アクティブ・ラーニング）			
○	A：PBL（課題解決型学習）	○	I：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
	U：ディスカッション、ディベート	○	E：グループワーク
	O：プレゼンテーション		K：実習、フィールドワーク
	※：その他（A L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間			
授業録画ビデオを毎回作成、youtubeで公開（あるいはブログを通じてurlを公開）するので、復習予定時間（講義時間とは別に合計4時間）を、視聴などによる復習およびノート作成、整備に充当すること。自分用の講義ノート（試験実施の場合は持ち込み可）を作成すること。また、講義で配布する配付資料および、指摘する新聞の関連経済記事、企業記事、雑誌記事、参考文献類の自らの購読を行うこと。その過程で生じた疑問や、独自の見解などあれば、積極的にメール（アドレスは講義で指示）などで問い合わせや提供をすること。それは他の受講生にも大いに参考になる。それが積極的な講義参加の一つの仕方である。			
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連			
生活者の視点から、経済のインフラとしてのファイナンス（金融、証券他）市場及び仕組みの積極的活用を目指して、知識の拡充と実践力の向上を目指す。従来、既存の制度や仕組みの本質を理解した上で、変化する時代に合った変革の方向性を考え、積極的に提案できることを目指す。			
双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述			
ブログを通じた授業内容の発信及び質問他への受付。適宜解説。出席票裏面の自由コメント欄の活用。			
実務経験の有無及び活用			
外国銀行及びシンクタンク勤務経験があり、実業界、実務社会での要請や必要要件の理解認識を持っている。本当の「実学」教育訓練の実践を目指し、実行力、思考力の醸成、育成を目指している。			
備考			